

## ハワイ大学マヌア校と合同で防災シンポジウムを開催しました(2014/1/30-31)

場所：米国ハワイ州ホノルル市ハワイ大学

テーマ：減災・防災，学際研究の融合

1月30～31日、ハワイ大学マヌア校と東北大学災害科学国際研究所がシンポジウムを共催しました，“Symposium for UHM-Tohoku University Disaster Risk Reduction Collaboration”（防災・減災に関する研究協力）と題して米国ハワイ州ホノルル市ハワイ大学マヌア校にて開催され、両校の教員・研究者やフィリピン（San Lazaro Hospital）からの研究者が参加し（35名）、復旧・復興，レジリエント社会，リスクアセスメント，経済被害，災害医療・感染症抑止，津波防災，減災教育に関する重要な議論が行われました。災害科学国際研究所からは，災害リスク研究部門の今村文彦教授（副所長），Jeremy Bricker 准教授，保田真理助手，災害医学研究部門の服部俊夫教授，浩日勒助教，人間・社会対応研究部門の馬奈木俊介准教授，情報管理・社会連携部門の泉貴子特任准教授，寄附研究部門の Anawat Suppasri 准教授の8名が参加しました。

ハワイ大学マヌア校とは，2012年3月11日の国際防災科学に関するフォーラムで，両校の包括協定（MOU）を締結以来，教員・研究者，学生の交流や，会議の共催などを積極的に進めてきました。特に，2015年に仙台で開催される第3回国連防災世界会議での大学・研究組織の貢献・役割についての議論を行う事が出来ました。第2回の会議で採択された「兵庫行動枠組 2005-2015」の進捗状況を点検・評価し，今後の新たな枠組みづくりに向けて，協力していくことを確認しました。IRIDeSの兵庫行動枠組み評価レポートも紹介され，非常に関心を持って頂きました。他にも APRU（環太平洋大学協会），APDR3（アジア太平洋防災・回復力ネットワーク），知のフォーラム（サマースクール，11月ワークショップ）などについても話し合われました。



上：今村副所長とコナン教授（ハワイ大学社会学専攻長）（左）と東北大学からの参加者（右）

下：講演する今村副所長（左）とシンポジウム参加者（右）

文責：今村文彦，保田真理（災害リスク研究部門），浩日勒（災害医学研究部門），  
泉貴子（情報管理社会連携部門），サッパシー・アナワット准教授（寄附研究部門）